

夏－2 台風が来た！

1. 活動の目的

- ①自然災害にはどんなものがあるか知り、災害への心構えを持つ。
- ②気象庁や市から発信される台風や大雨の情報を理解する。
- ③台風、大雨に備える。

2. 準備するもの (☆は教材ファイルにあるもの)

- ☆防災ハンドブック(吹田市)日本語、英語、中国語、韓国語版
- ☆「どうしますか」シート／避難文字カード
- ☆「避難勧告等の伝達内容」岐阜県防災課

3. 活動の手順 留：留意点 参：参考 発：発展的活動

活動1

- ・イラストを見ながら、自然災害の語彙を確認する。テキストの語彙以外にも、学習者から出てきたらつけ加える。
- ・「災害に遭った経験」は、学習者からあまり話が出なければ、大きな被害に限らず、台風で乗る飛行機が欠航になったとか、雪道で転んで骨折したとかとか、何らかの影響を受けた経験を話してもらおうとよい。日本だけでなく、自国での経験でもよい。
- ・今住んでいる地域で、大雨や台風時に災害が起きやすい場所、危険な場所がないか聞いてみる。また、ボランティアが知っていることがあれば話す(川があふれたことがある、がけ崩れが起きたなど)。

活動2

- ・[注意報と警報]を読んで、「注意報」と「警報」があること、注意報→警報→特別警報の順に危険度が高いことを説明する。
- ・休校(休講)の説明の文の正しい答えに○をつけてもらう。正答は c. 暴風警報
- ・雨や台風など天気に関する情報を何で得ているか、休校などの(会社では早退になることがある)判断基準となる警報や注意報などの情報をどうやって得ているか、聞いてみる。

- ・[台風や大雨で危険があるときのお知らせ]を読む。
- ・言葉を覚えたかどうか、適切な行動がとれるかどうかを簡単な2つのゲームで確認する。方法は次の通り。

●聞いてわかるかどうかの確認

- ①学習者全員に見えるように「どうしますか」シートを貼る(置く)。
- ②ボランティアが下の「お知らせ」を読み、学習者はテキストを見ないで「どうしますか」シートの番号を言う。

◇お知らせ1 こちらは吹田市災害対策本部です。5時5分、吹田市に大雨の特別警報が発表されました。

「どうしますか」シート

◇お知らせ2 こちらは吹田市災害対策本部です。ただ今のサイレンは吹田市全域に対して避難指示を発表したことをお知らせするサイレンです。

◇お知らせ3 こちらは吹田市です。ただ今、7時20分に〇〇地区に対して避難準備情報を発表します。避難の準備を始めてください。

留 この聞き取り練習は勧告や指示だけが聞き取ればよい。お知らせの文を全部説明する必要はない。

発 よくできる学習者には、生の原稿を読んで聞く練習をするとよい。

●「文字情報」がわかるかどうかの確認。

①ボランティアは「避難文字カード」を見せて「テレビにこの字がでました。どうしますか。」

②学習者は「どうしますか」シートの番号を言う。

留 この練習は文字を見てわかることが目的。文字を読ませる必要はない。

・避難所の場所を知っているか、またいざというとき助けてもらえる近所の人はいるか、聞いてみる。普段から近所の人と言葉を交わすよう、助言する。

・台風への備えをグループで話し合う。テキストのイラストは停電（懐中電灯やろうそくの準備）、溝や排水溝の掃除を表している。防災ハンドブック 16 ページのイラストを活用する。

・台風や大雨の時の注意点をまずグループで話し合う。テキストのイラストが何を意味していると思うか、聞くとよい。「どちらがいい？」を考えてもらう。

・次に、学習者から出てこなかった注意点があれば、ボランティアが説明し、学習者に気づいてもらう。防災ハンドブックの 24 ページを見て、みんなで注意点を確認する。

参 イラストの意味 (参考：大阪市鶴見区役所「大阪に台風が来たとき」)

風が強いとき：物が飛んでくるかもしれないので頭を守る

窓にテープを貼る、雨戸をしめる、カーテンを閉めて窓から離れる

雨が強いとき：高いところへ逃げる

大雨の中を逃げるとき：車より徒歩で

水の中を歩くときは脱げないよう紐のある靴で

荷物は両手が使えるようにリュックで

棒で足元を確認しながら

避難勧告等の
伝達内容

避難文字カー
ド

活動3
防災ハンド
ブック